

目次

はじめに

8

まずは“オニオン・セオリー”

11

第一層

子ども達はどのように学び、発達するのか

15

第二層

子ども達はどのように言語を習得するのか

45

第三層

子ども達はどのように外国語を習得するのか

61

おわりに

84

追記

90

はじめに

経験は大切だ。確かに日々の経験の中で学ぶ事は大きなものであり、経験から得た力は誰もが認めるものかもしれません。一方で、学歴社会と言う言葉に代表されるかのように、知識や学問における努力や達成の力も人が認めるものでしょうか。私自身、経験優先？といった人生を歩んできました。しかし経験には時間がかかります。経験ではすぐには得ることの難しい知識を、言葉または情報として得ることの大切さも痛感しました。

そんな時、役に立ったのがワークショップや先輩指導員からの言葉でした。教科書にある様な解説ではありませんでしたが、その一端をその都度わかりやすく耳にし、それらが身につけていったのを覚えています。本書発行にあたっては、私自身、英語指導者として発展途上ではありますが、一人の英語指導者として私が今までに得たモノを少しでも有益なものとして社会の役に立てることができるとを願い、執筆することに至りました。

長谷山康一

ざっくり基礎を

皆さん、はじめまして。小さなインターナショナルスクールを運営しております、長谷山康一(はせやまこういち)と申します。この本をお手にお取り頂きました皆様に心より感謝申し上げます。本書は、英語教育に熱心な保護者や、子どもへの英語指導において経験の少ない新人先生の皆様に対し、私が今まで行ってまいりました幼児・児童英語教授法に関するワークショップや談話の内容の一部をトピック別にし、「知識」をまとめたものです。

本書は、特に英国やカナダなどの大学院レベルの専門的な研究内容をベースとしていますが、細かい内容の理解よりも、むしろ一人ひとりの英語教育の基となりうる**知識を“ざっくり”と身につけ**、その必要最低限の**“知識の鎧”**が皆様のそれぞれの教育現場(学校や家庭)での有益な活動へとつながることを願っております。

英語と日本語 専門用語の扱いについて

読みやすさを最優先に考えた表現が多々見られる場合もあります。登場する学者名や理論の名称は、基本的には英語名を基本としてのカタカナ表記であることや、あえて専門用語は和訳せずカタカナ表記といった部分もございますことをご了承ください。

また、もちろんここで解説する専門用語の定義やセオリーの解釈やそれら自体には論議の余地のあるものも多くあります。(それが学術界の常なのかも知れません。)本書ではあくまでその一片を捉え、容易な表現を心がけており、学者の皆さんが期待する専門的な学術書としては不十分かつ不適切な部分も有るかもしれませんことをご容赦下さい。

本書掲載の諸説の解説は、噛み砕いた表現を求めため、本書筆者個人の解釈を反映しているものも多く、解説を簡易化しているものがほとんどですが、それは諸説の提唱者の意図を誤認させようとするものではないことをご理解下さい。

まずは“オニオン・セオリー”

本書は:

第一層:

子ども達はどのように**学び、発達**するのか

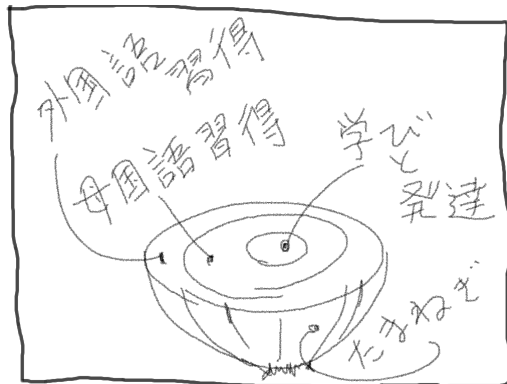
第二層:

子ども達はどのように**言語**を習得するのか

第三層:

子ども達はどのように**外国語**を習得するのか

の3つの“層”を中心に構成されています。



これは私が子ども英語教授法修士課程を勉強した大学院のアニ
ー先生(A. Hughes)が英語教育のとある有名な学会で発表したも
のを参考にしたものです。オニオン・セオリーは私が勝手に
呼んでる名前ですので、“アニー先生のオニオンセオリー”とい
っても分かってくれる人は少ないかもしれませんので、ご注意くだ
さい m()m。(一応、先生の説明にも確かオニオンが登場します
が。。。)ちなみに実際にはこれに更に何層もあります。

このセオリーでは要するにコアとなる“一般的な学びと発
達”(例えばどうやって物の数を学ぶとか)を無くしては“言語(母
国語)習得”は語れない、この二つの層を無くしては“外国語(第
二言語)習得”については語れない、といったところでしょうか。内
側の層が無くては成り立たない、**そんな玉ねぎあり得な
いよ、そんな思いも是非とも紹介したく。。。**ですので、以下の3
つの層、そんな心持ちで読み進んで下さいね。(もちろん、これ以
外にも様々な有益な考え方が第二言語習得論に関しては展開さ
れています。)